

わがまち紹介



行方市

笑顔で住み続けたいまち、行方

パワーアップする一次産業

行方市の魅力は、なんといっても農業、畜産業、水産業の一次産業で、それらがさらにパワーアップしています。

行方市では、サツマイモやレンコンなど年間80品目以上の農作物が生産され、首都圏への食料基地になっています。また、サツマイモは海外へ輸出されるほどの産地として名を馳せています。

一次産業の強さの秘密は、「なめがたブランド戦略会議」による農畜水産物の「ブランディング」と「情報発信」の取り組みです。当団体は、行政と農畜水産業者、地域の関連団体が連携し、農畜水産業や地域の課題を見出し、解決を目指す組織として、産品に高付加価値を付けるエッジの効いた、先進的なブランディングに取り組んでいます。農産物では「サツマイモ」を美味しく食べる「焼き芋戦略」を全国的に展開しています。畜産業では、「美明豚」や「米豚」など、餌や飼育環境にこだわったブランド肉を生産しています。水産業では、「シラウオ」の鮮度判定にAI(人工知能)を使うという先進的な取り組みも行っています。

情報発信については、本市生産物の市場への浸透を背景に生産者が自信を持つようになり、その魅力を発信

する市民が増えてきたと感じています。本市は「情報発信日本一のまち」を目指しており、市民や団体自らによる情報発信に加え、マスメディアを通して農畜水産物のさらなる認知拡大と向上を目指しています。

こうした「ブランディング」と「情報発信」を継続していくことが、本市の持続可能な地域づくりにつながると考えています。

「なめがたブランド戦略会議」では、農畜水産物に付加価値を付ける商品開発やふるさと納税の返礼品の開発にも取り組んでいます。これにより、本市のふるさと納税の寄附額は、2023年度も既に過去最高を記録するなどここ数年で大きく伸びています。これは返礼品に対する評価の表れということができ、出品する生産者や事業者も増えています。

私の市政運営のキーワードの一つは、『『ないものねだり』より『あるもの探し』』です。子どもたちはショッピングセンターが欲しいとよく言うのですが、ないものをねだるよりあるものを探して、それを活かして前に進んだほうが良いと思っています。サツマイモは昔からあるものですが、それがいまや世界に広く売れるようなまちになっているということに誇りを持ってもらいたいですね。



株式会社筑波銀行
麻生支店長
笹沼 泰之

行方市長
鈴木 周也氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県行方市です。筑波銀行麻生支店長 笹沼 泰之が行方市長 鈴木 周也氏にお話を伺いました。



霞ヶ浦産のシラウオを原料にした調味料「しらお魚醤」と食べ方の提案をした「賛否両論」の笠原シェフ(右)と鈴木市長

食べ方の提案や教育現場での活用

本市では、農畜水産物を単に商品として売るだけでなく「消費者の口に入るまで」を念頭に、食べ方の提案についても戦略的に行っています。

その一例が、料理レシピコミュニティウェブサイト「クックパッド」への公式キッチン開設やSNSを活用したレシピコンテストの開催です。レシピコンテストは、本市を代表する生産物をテーマ食材にし、オリジナルレシピを全国から募集するコンテストとして、これまでに9回開催し、募ったレシピの中から優秀なものをパンフレットやウェブサイトで紹介しています。

また、雑誌とのコラボレーション企画として、「オレンジページ」では、著名な料理家にサツマイモを使った料理を、「フォーブスジャパン」では、シラウオの鮮度をAI(人工知能)で客観的に判定し、付加価値を高めてブランディングする試みを記事にさせていただきました。

教育現場では、学校給食に地産地消を取り入れ、本市産の食材に関する学びや生産者への敬意と感謝を育む取り組みを行っています。月に1回「なめがたの日」を設け、本市生産物の食材をベースにした給食を提供。米や野菜、肉はもちろん、シラウオやワカサギ、鯉などの料理も出しています。また授業では、野菜の苗植えから収穫までを体験してもらうようにしています。

2023年3月には、地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物・食品のうち、品質等の特性が産地と結び付いている産品について、知的財産として保護する農林水産省の地理的表示保護制度(GI)に、本市のサツマイモが「行方かんしょ」として登録されました。サツマイモとしては東日本初となり、市場関係者の評価に大きくつながっています。

また、販路開拓として地元JAが中心となり積極的に輸出にも取り組んでいます。タイやカナダなどの6カ国に年間約1,000トン輸出しています。特にタイへの輸出量は多く、年間約850トン輸出しています。サツマイモの基本の食べ方を「焼き芋」として紹介し、焼き芋を焼く機械とセットで輸出しています。そうした食べ方までを提案することで、戦略的な海外市場への輸出につながっています。農林水産省が進める農林水産物・食品の輸出

拡大実行戦略の中のモデルケースであることは間違いなく、大臣も視察に訪れています。

行方市のファンになってもらいたい

観光面では、官民連携事業による「霞ヶ浦ふれあいランド」のリニューアルにより、「どうぶつとみんなのいえ」が2024年夏にオープン予定です。またこの事業は、茨城県宿泊施設等立地促進事業の認定も受けています。

リニューアルは、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」との接続や国交省の「天王崎・沖洲地区かわまちづくり」との連動性を視野に入れており、交流人口の増加を期待しています。

また、天王崎公園では「なめがたキャンプ」というキャンプ事業を不定期に期間限定で開催しています。湖畔の美しい風景やまちの様子、雰囲気など、本市の良さを知ってもらうことが目的で、不定期に開催することで付加価値を高められればと思っています。

「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を利用するサイクリストの増加により、市内の飲食店が賑わいを見せています。サイクリストの利便性を高めるために、現在、キャッシュレス化やWi-Fiの整備を視野に入れています。

私は行方市に足を運んでもらうことだけが、交流だとは思っていません。例えば、ふるさと納税の寄附者へ市の施策を紹介したり、寄附金の使い道を紹介することも交流の一つだと思っています。

そうした交流・関係人口を増やすことで、いかに行方市のファンを獲得していくかが重要です。

「フィルムコミッション」による交流・関係人口の増加もここ2、3年顕著に表れており、東京から近く、土地が平坦で高層の建物がない、また、霞ヶ浦などの自然や学校跡地などがあり、いろいろなシーンのバリエーションを作りやすい、などといった評価が受入れ数の増加につながっています。話題の映画やドラマなどの撮影も年に数作品行われています。

これは地域経済への波及効果も大きいです。今後はロケ地巡礼が行われるなど、観光の促進にもつながる撮影が行われるといいですね。



GIに登録された「行方かんしょ」

東関東自動車道水戸線の開通による活性化を期待

東関東自動車道水戸線(潮来～銚田)の整備が進んでいます。市内にパーキングエリアが設置されることが決まっており、本市としてはその周辺に高速道路、一般道双方から利用できる「ハイウェイオアシス」や「道の駅」のような施設の設置を検討しています。

また、インターチェンジが市内に2つ設置されることも決まっています。そうすると交通量が増加して人の流れが変わります。本市へのアクセスが飛躍的に向上することにより、工場や倉庫の立地も想定されます。実際、工場や物流系の企業の引き合いが増え始め、既に学校跡地に開業した企業もあります。



再生整備の進む霞ヶ浦ふれあいランド

「移住」よりも「定住」の促進

政策においては「移住・定住」という順番で表現されるほうが一般的ですが、私は「定住・移住」としています。それは、まずは定住できる地域づくりのほうが大事だからです。

定住するためには、仕事が必要です。「行方市総合戦略」の中の「働く場の拡大プロジェクト」には、地域に根ざした産業を活性化し、働く場を確保するという目標があります。



株式会社筑波銀行 麻生支店長
笹沼 泰之

インターチェンジの設置に伴う物流の活性化により関連業務で収入が見込めるようになれば、本市で起業する人たちが増えます。企業誘致だけでなく、起業支援にも力を入れ、本市で日常生活を営むことができるような仕事を増やし、定住を促進してまいります。

また、都内で移住セミナーを開催し、企業関係者や公務員が本市の魅力、就業や生活などのリアルな情報を紹介することで、本市での暮らしをイメージしやすくする取り組みを行っています。

学校教育では、子どもたちの将来の定住に向けて、農業など自ら仕事をつくるためのカリキュラムを実施しています。



行方市長 鈴木 周也 氏

市内に約400kmの独自の光回線を敷設整備し、2016年には「なめがたエリアテレビ」を開局するなど、ICT環境が非常に整っています。そのためコロナ禍におけるリモートスタディも順調に進めることができました。

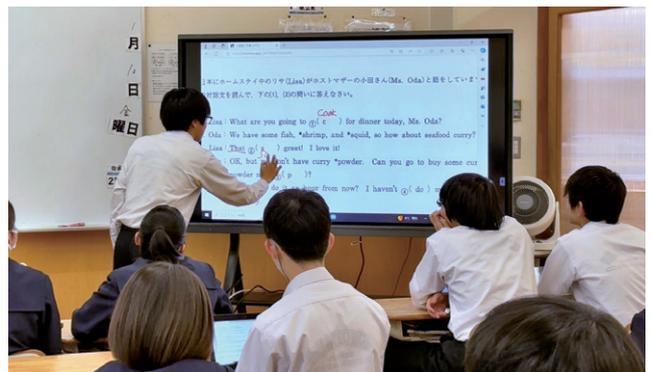
また、市ではサテライトオフィスの誘致による定住促進を検討しています。子どもたちには、サテライトオフィスなどを使えば地方部でも仕事ができるということを実感してほしいですね。進学などで都市部へ出て行っても、いつかはふるさとに戻ってきて仕事をするという選択肢を持っていてほしいと思います。

筑波銀行への期待

筑波銀行さんには、同行が発行する寄贈サービス付きSDGs私募債「地域の未来応援債」により、学校に電子黒板などを寄贈していただきました。大変ありがたく活用させていただいております。

今後は起業支援として、マーケット情報やお金の勉強、ベンチャーキャピタルなど、金融機関ならではの役割を果たしていただき、地域の持続可能性を高める政策を共に実行できればと考えています。

起業で最初につまずくのが資金面です。ここで仕事を作り、仕事をして欲しいですから、イニシャルの部分の融資等の支援もお願いしたい。事業承継やキャッシュレスの扱い方などについてもアドバイスをいただければ、新しい会社も出てくると思いますので、期待しています。



「地域の未来応援債」で寄贈された電子黒板

(取材日:2023年12月4日)

行方市

子育てするなら なめがた

行方市では、「子育てするなら なめがた」をキャッチフレーズに、妊娠期から子育て期まで、切れ目なくサポートする体制を整えています。市内に住んでいる0歳から18歳までの全ての子どもとその家庭、妊産婦等を対象にさまざまな相談に対応し、関係機関と連携を図りながら、実情に応じた適切な支援につなげています。

妊娠～出産

不妊症治療費等補助

令和4年4月1日以降に開始した不妊検査・不妊治療に要した医療費の自己負担分を助成します。

- 不妊検査5万円(上限)
- 一般不妊治療 自己負担分全額
※保険診療は負担限度額まで
- 生殖補助医療 自己負担分全額
※保険診療は負担限度額まで
- 先進医療10万円(上限) ※年2回まで
市への事前相談時に詳しくご案内します。

不育症治療費等補助

不育症治療に要した医療費の自己負担分を助成します。

- 1回あたり5万円(上限) ※年1回まで

出産・子育て応援給付金

妊娠届時・出生届後に給付金を支給します。

- 妊娠1回につき5万円
- 新生児1人につき5万円

誕生祝金

令和4年10月1日以降に生まれたお子さんを対象に、出産以前から市内に在住し、出生日から引き続き6カ月以上子どもを監護している父または母等に支給します。

- 新生児1人につき10万円

子育てママ育児支援品贈呈

1歳未満の乳児の保護者に、育児支援品として紙おむつを8パック・おしりふきを2箱支給します。

就学前

子育て広場

子どもとその家族を対象に、麻生公民館・行方市保健センター・玉造公民館の市内3か所で開催する遊び場です。

各種講座

親子のふれあいを目的とした親子講座のほか、地域子育て力アップ講座などを開催。親子も祖父母も地域の方も参加可能です。

療育相談

子どもの発達について、言語聴覚士・作業療法士・公認心理師などの専門職に相談できます。発達に合わせた教室も開催しています。家族の方の悩みごと相談にも対応しています。

ふれあいペアレントプログラム

0歳から5歳までの子どもの発達段階に合わせて、より良い子どもとの関わり方を、全5回の教室で学べます。

元気いっぱい子育て応援支援金

0歳から中学3年生までの子どもの保護者に、子ども1人につき3万円を支給します。

※令和5年度のみのお事業です。

就学後～18歳

ペアレントトレーニング

5歳から小学生の子を持つ保護者が、子どもへの関わり方を具体的に学べる講座を開催しています。

療育相談

子どもの発達等の心配ごとについて、公認心理師と個別相談ができます。

思春期ふれあい講座

赤ちゃんのお世話体験を通して、命の大切さや自分自身を大切にすることを学びます。

子育てニコニコ(武湖武湖)支援金

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校へ入学する等の年の子を持つ保護者に、子ども1人につき2万円を支給します。

- 子ども1人につき2万円



子育て広場



親子でいも掘り



ふれあいペアレントプログラム



発達検査



療養運動教室

行方市子育て総合情報サイト 「子育て日和」もご覧ください

官民協働ポータルサイト「子育て日和」には、子育てに関する詳細な情報を掲載。子ども福祉課からの最新情報や保育所など市内の子育て支援施設のイベント情報も掲載しています。

